

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月

結果公表日:2025年3月27日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%

保護者様: 25名回答、回答率 86%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・粗大運動などを目的とする活動の際は狭さを感じることもあるが、相談室や静養室を状況に合わせて活用し、児童対応をしている。
- ・こどもの特性に応じてスケジュールやルールなどの視覚的な掲示をするなど、生活空間の構造化を図っていきたい。

○業務改善

- ・業務前ミーティングで具体的に話を展開し、職員の意見を把握する機会としている。
- ・職員の資質向上のために研修を受講する機会は確保することができている。教室での事例検討会を今後は行っていきたい。

○適切な支援の提供

- ・利用者や保護者のニーズに合わせた放課後等デイサービス計画を作成し、計画に沿った支援を行うことができている。定期的な個別課題の現状確認や見直しは続けていきたい。
- ・支援開始前の打ち合わせは基本実施しているが、長期休み中の打ち合わせ時間や支援終了後の振り返りの機会が不足している。職員の勤務時間の兼ね合いもあるため、記録やメモなどを用いた共有方法も検討していきたい。

○関係機関や保護者との連携

- ・保護者とは日頃から子どもの状況を伝えあい、共通理解をもつことができている。
- ・学校や他事業所との連携は必要に応じて行っているが、地域や児童発達支援センター、障害福祉サービス事業所等との連携を増やしていきたい。

○保護者への説明責任等

- ・日頃の支援内容、運営に関する説明は、書面だけでなく電話や対面でのお伝えの機会を設けるなど、保護者に対して丁寧に行っている。
- ・保護者会の開催には至っていないため、来年度に企画したい。

○非常時等の対応

- ・マニュアルを整備し、発生を想定した訓練を行うことができている。今後、保護者会やブログを通じて、非常時対応について家庭への周知の機会を増やしていきたい。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・職員の配置数は適切であるかの質問について、「はい」の回答が5割であり、「スタッフの数が少なくなったと思う」「職員の定着が必要」とのご意見をいただいた。
- ・生活空間は子どもたちの活動に合わせた空間となっているかの質問について、8割の方から「はい」との回答をいただいた。一方で、多動性のある児童がいる場合に活動スペースが確保されているかを心配するご意見もいただいた。

○適切な支援の提供

- ・放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているかの質問について、9割の方から「はい」との回答をいただき、個別支援計画や支援内容には満足いただけていることがうかがえた。

○保護者への説明等

- ・運営規定や支援プログラム、放課後等デイサービス計画について丁寧な説明があったかの質問について、9割の方から「はい」とのご回答をいただいた。
- ・日頃からこどもの状況を伝えて共通理解ができているかの質問について、9割の方から「はい」との回答をいただき、「精一杯、親身に対応して下さっています」とのご意見もいただいた。
- ・保護者同士の交流の機会について「保護者会などやってもらいたい」とご意見をいただいた。

○非常時等の対応

- ・非常時のマニュアルの策定や訓練が実施されているかの質問について、8割の方から「はい」との回答をいただいた。

○満足度

- ・こどもが通所を楽しみにしているかの質問について、「はい」の回答が6割に対し「どちらともいえない」の回答が3割あり、「苦手なお友達がいるとテンションが落ちてしまう」とのご意見もいただいた。職員や児童同士の関係づくりに課題があることがうかがえた。
- ・事業所の支援に満足していますかの質問について、8割の方から「はい」とご回答をいただき、満足度は高いことがうかがえた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・障害福祉サービス事業所と連携がとれる関係を作り、卒業後スムーズに移行できるようにする。
- ・年間1回保護者会(療育報告会)を企画し、実施する。
- ・集団療育や個別課題の取り組みなど、教室の日々の様子を月に1~2回のブログやニュースレターで掲載し、保護者に周知していく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・3月に就労移行支援事業所の見学会を企画し、卒業後の移行に向けて連携を開始している。今後も障害福祉サービス事業所との関係づくりを広げていく。
- ・保護者会の実施には至らなかった。来年度の実施時期を今年度中に定めて企画していく。
- ・ブログの更新ができず、教室の日々の様子を報告する機会が不足していた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・児童の特性に合わせて相談室や静養室などを活用し、スケジュールや活動の切り替えに合わせて場所を移動したり、休憩やクールダウンのために落ち着く場所として用いることができている。今後も視覚的に場所と用途を示していき、スペースの使い分けを行って居心地のよい空間づくりを図っていきたい。
- ・送迎時や電話、連絡帳などのやりとりによって、保護者とこどもの状況について共通認識をもちながら、放課後等デイサービス計画の作成や計画に基づいた支援を行うことができている。計画の更新面談の際は丁寧に現状の課題を確認することで、ニーズに沿った計画を作成するよう努めている。
- ・非常時のマニュアル策定を行い、教室内研修によるマニュアルの確認や訓練、子どもも交えた月に一度の訓練の実施ができている。

○改善点

- ・子ども同士の関係づくりが難しいことがあり、通所するメンバーによって気持ちの浮き沈みが顕著に現れることがある。対人関係を築く練習になるような支援プログラムを積極的に取り入れていく。また、職員が児童同士の関係をつなげたり、楽しめるイベントを企画したりすることで、前向きに子どもたちが通所できるような教室作りに努めていく。
- ・保護者会が実施できておらず、保護者同士の交流の機会が少ない。保護者会実施の要望もあるため、年に1~2回を目安に開催をしていく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・日々のミーティングでの共有だけでなく、教室内研修の実施や外部の講習参加の機会を設けることで、職員の定着や支援のスキル向上を図っていく。また、こどもの興味のある活動やプログラムを取り入れて、子どもが楽しめる教室の雰囲気作りに努めていく。
- ・小学校・中学校・高校の移行時に各関係機関と情報共有を行い、切れ目のない支援を目指していく。高校卒業後、進路として選ばれる可能性のある地域の障害福祉サービス事業所などと連絡をとり、利用者への情報発信や移行支援に繋げていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者会を年1~2回実施し、保護者への日々の様子や非常時対応について周知していくとともに、保護者間での交流の機会を提供していく。
- ・地域の就労移行支援事業所や就労継続支援B型事業所と連絡をとり、長期休みに見学会の実施を行っていく。
- ・非常時対応について、マニュアルの見直しや新規職員を連れての避難経路確認などを行い、大規模災害に備えていく。

スマートキッズ